

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

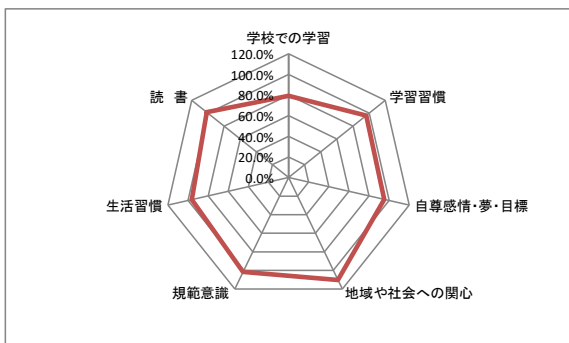
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○昨年度は「同程度」であったが、今年度は全国平均正答率を上回った。 ○どの問題においても無解答率が全国平均と比べて低く、どの問題にも根気よく取り組んでいる。 ○観点別では、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の問題の正答率が全国正答率を上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○ 領域別の「読むこと」の「目的に応じて、本や文章全体を効果的に読む」に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	○ 領域別の「書くこと」の「自分の考えを明確にし、まとめて書くこと」に関する問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	○領域別では、「図形」領域での正答率が高く、「量と測定」領域での正答率が低かった。 ○どの問題においても無解答率が全国平均と比べて高い。 ○問題形式別では、記述式の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 基本的な平面図形についての理解を問う問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	○ 計算に関して成り立つ性質を記述式で表現する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○	食事や就寝に関する項目においても、ほぼ全ての児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。昨年度同様、基本的な生活習慣に関しては良好な態度が身に付いている。
○	学習(国語や算数)に対する興味・関心や授業の理解度等に関しては、全国と比べて低い傾向にある。
○	学習習慣等に関する項目では、家庭学習や読書の時間、新聞を読む割合が全国と比べて低い傾向にある。
○	「学校のきまりを守っている」「進んで人を助ける」「いじめはいけない」という項目の割合は、全国を上回っている。積極的な生徒指導を通じた実践が規範意識の向上につながっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ 問題形式では、記述式の問題での無解答率が高かった。また、学習に対する興味・関心や授業の理解度に課題がある。したがって、アクティブラーニングの視点から授業改善に取り組んでいく必要がある。特に、話し合い活動(自分の考えをノートに書き、くべア、全体)などの交流を通して、自分の考えと友だちの考えを比較していく)を必ず1時間の中で行い、本時のねらいを意識した指導を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 家庭学習の時間が全国平均と比べて低い。したがって、宿題や自主学習について「方法・内容」を学年・学校で話し合い、家庭に向けて発信していく。
○ 「生活がんばりカード」を月1回を実施する。児童・保護者が「ふり返りカード」を通して、学校・家庭での生活を一緒にふり返る手立てとする。
○ 社会での問題や出来事への関心が全国平均と比べて低い。読書指導も含めて、新聞等々を利用した教育(NIE)が考えられる。